

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

## ⑫ 公開特許公報(A) 平4-62636

⑬ Int. Cl.<sup>5</sup>

G 06 F 9/06

識別記号

4 5 0 K

庁内整理番号

7927-5B

⑭ 公開 平成4年(1992)2月27日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 カード作動型コンピュータシステム

⑯ 特 願 平2-173476

⑰ 出 願 平2(1990)6月29日

⑱ 発 明 者 和 田 明 彦 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

⑲ 出 願 人 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地

⑳ 代 理 人 弁理士 栗野 重孝 外1名

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

カード作動型コンピュータシステム

## 2. 特許請求の範囲

記憶領域を内蔵しているカードと、このカードに対し読み取り可能な読み取り装置を具備し、前記カードの記憶領域の内容により、カード毎に利用可能なコンピュータシステム及びデータを規定することを特徴とするカード作動型コンピュータシステム。

## 3. 発明の詳細な説明

## 産業上の利用分野

本発明は、コンピュータシステムに関するものである。

## 従来技術

高度情報化社会と呼ばれる現在、様々なコンピュータシステムが存在しそのコンピュータシステムを用いて極めて重要なデータでさえも利用されている。従来、利用者がコンピュータシステムを利用するには利用者名を入力して、その後上記利

用者名に対応するパスワードを入力するという方法をとっている。

## 発明が解決しようとする課題

しかしながら、上記の方法では利用者Mが何らかの理由で利用者Nのパスワードを知ることさえできれば利用者Mが利用者Nの利用できるコンピュータシステムを簡単に利用することが可能となり、よって極めて重要なデータでさえもそのデータを利用可能な利用者のパスワードを知ることのみで利用できるという問題点がある。

最近パスワードを破ってコンピュータシステムに侵入するハッカーの問題もあり、パスワードだけでコンピュータの利用を許すのはコンピュータ及びデータの保護において問題であると考えられる。

本発明は、コンピュータ及びデータの保護の大幅な強化を図ることができるカード作動型コンピュータシステムを提供することを目的とする。

## 課題を解決するための手段

本発明は、上記問題点を解決するために、記憶

領域を内蔵しているカードと、このカードに対し読み取り可能な読み取り装置を具備し、前記カードの記憶領域の内容によりカード毎に利用可能なコンピュータシステム及びデータを規定するようにしたものである。

#### 作用

本発明は上記構成により、カード毎に、利用可能なコンピュータシステム及びデータを規定するようにしたので、利用者はコンピュータシステムA及びデータXを利用するためには、通常のパスワードだけでなく、コンピュータシステムA及びデータXを利用可能であることを記憶している上記カードを使用することが必要となる。従って、コンピュータシステム及びデータの保護を強化することができる。

#### 実施例

以下、本発明の実施例を図面を用いて詳細に説明する。

第1図は本発明の実施例を示すカード作動型コンピュータシステムの概略構成図、第2図は本発

明の実施例を示すフローチャートである。

第1図において、1は記憶領域を内蔵しているカード、2はそのカード1のデータを読み取るための読み取り装置、3は中央処理装置、4はディスプレイ、5はキーボードとマウスである。カード読み取り装置2と中央処理装置3とディスプレイ4とキーボード5で一つのコンピュータシステムを構成し、各コンピュータシステム6a、6b、6cはコンピュータシステム及びデータの利用許可に関する情報を格納しているホストコンピュータ8に接続されている。

次に本発明の実施例を示すカード作動型コンピュータについて第1図、第2図を参照しながら説明する。

ステップ10ではまず、通常のコンピュータシステムを利用するのと同様に利用者名、続いてパスワードの入力を行なう。

ステップ11では、ステップ10を行なった結果通常のコンピュータシステム使用状態になる。

ステップ12では、利用者がカードを使用しな

ければ利用することができないコンピュータシステム6a(又はデータX(以下略))を利用しようとする。

ステップ13では、コンピュータシステム6aに必要なカード中のデータ(コンピュータシステムID)が以前に入力されているかどうかホストコンピュータ7に記憶されているので、それを調べて、入力されているならばコンピュータシステム6aが利用可能となるステップ18へ、入力されていないならばステップ14へ進む。

ステップ14では、ディスプレイ4にカード1の入力を要求するメッセージが表示され、カード入力を行ない、カード入力があるならばステップ15へ、カード入力がないならば利用不可のステップ19へ進む。

ステップ15では、ステップ14で入力されたカードのコンピュータシステムIDがコンピュータシステム6aの利用を許可するカード1であるかホストコンピュータ7を調べて、そうであるならばステップ16へ、そうでないならばステップ

19へ進む。

ステップ16では、ディスプレイ4にパスワードの入力を要求するメッセージが表示され、パスワードの入力を行ない、入力があるならばステップ17へ、入力がないならばステップ19へ進む。

ステップ17では、ステップ16で入力されたパスワードがコンピュータシステム6aの利用を許可するカード1のコンピュータシステムIDに対応するパスワードPであるならばステップ18へ、そうでないならばステップ19へ進む。

ステップ18では、コンピュータシステム6aの利用が許可されて、通常の使用状態に戻る。

ステップ19では、コンピュータシステム6aの利用が不許可になり、その原因をディスプレイ4に表示して、通常の使用状態に戻る。

この結果、利用者はカードによって保護されたコンピュータシステム6aを利用するためには、コンピュータシステム6aの利用を許可するカード1を使用し、且つカード1に対応するパスワードPを知っていなければコンピュータシステム6

aを利用することができなくなり、コンピュータシステム6aは強力に保護されたといえる。

また、カードに記憶された内容には様々な場合があり、それによって利用可能になるコンピュータシステム及びデータが規定される。

なお、本発明は上記実施例に限定されるものではなく、本発明の趣旨に基づいて、カードにパスワードをつけない場合や、利用者名入力を行わなくてもよい場合や、利用者名、カード、パスワードの入力順序の変更を行なう場合等の種々の変形が可能であり、これらを本発明の範囲から排除するものではない。

#### 発明の効果

以上、詳細に説明したように、本発明によれば次のような効果を奏することができる。利用者はカードによって保護されたコンピュータシステム及びデータを利用するためには、上記コンピュータシステム及びデータの利用を許可するカードを使用し、且つ上記カードに対応するパスワードを知っていなければ上記コンピュータシステム及び

データを利用することができなくなり、コンピュータシステム及びデータは強力に保護された。

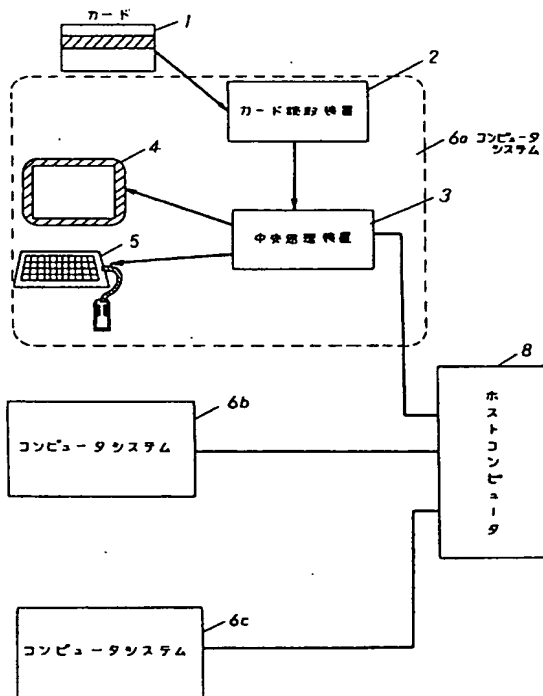
#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の実施例を示すカード作動型コンピュータシステムの概略構成図、第2図は本発明の実施例を示すフローチャート図である。

1…記憶領域内蔵カード、2…カード読み取り装置、3…中央処理装置、4…ディスプレイ、5…キーボードとマウス、6a～6c…コンピュータシステム、8…ホストコンピュータ。

代理人の氏名 弁理士 栗野重孝 ほか1名

第1図



第2図

